

2018 スーパーGT 第5戦
富士スピードウェイ
2018年8月4日(土)

予選

来場者: 22,100人 天候: 晴れ時々曇り

シリーズ唯一の海外戦のタイでのレースから、スーパーGTの戦いの場は、LEXUSのホームコースである富士スピードウェイに舞台を移しシリーズ第5戦を迎えた。これまでに29ポイントを獲得し、ランキング4位。前半戦をランキング上位グループで終えているが、当然、ウエイトハンディを課せられてシリーズの中盤戦は耐えて、なおかつポイントを稼ぐという戦いが続く。Q1を突破し、Q2へ進出。7番手グリッドから500mile、800kmの真夏のシリーズ最長レースへ臨む。



- ウエイトハンディは29ポイントの獲得によって、58kg(実ウエイト41kg+燃料流量規制1段階)を背負っている。
- 平川 亮がQ1を担当。セッションの終盤にQ2進出を果たせる8番手に順位をあげた。
- ニック・キャンディがQ2を担当して、一つ順位をアップして7番手で予選を終えた。

DRIVER	Car No.	Qualifying 1		Qualifying 2	
平川 亮	1	P8	1:29.378	P7	1:29.430
ニック・キャンディ					

天候	晴れ時々曇り/ドライ	
気温/路面温度	気温: 31-31度C	路面温度: 44-42度C

平川 亮 (1号車ドライバー)



「マシンのバランスは、今シーズンで最高の状態までもってこれていると思います。しかし、ポールポジションのマシンから約1秒離れているので落胆しています。自分達にとっては、満足できる予選でした。ちょっと気になるのは、同じ燃料リストラクターのマシンよりもストレートが遅いので、それをマシンのセッティングかエンジンの調整で改善できれば良いですね」

ニック・キャンディ (1号車ドライバー)



「富士のロングストレートを走っているときは、アクセルを踏み続けても、燃料リストラクターによって加速ができず、本当に退屈な時間を過ごしているだけだった。マシンの状態はとても良かったのでQ2に進むことができたけれど、決勝は、やはり退屈なラップを重ねるだけになるのだろう。しかし、ファンの皆さんに、退屈なレースをお見せしないように、全力で頑張ります」

小枝 正樹 (1号車エンジニア)



「Q2へも進出できましたし、上手い予選だったと思います。41kgのウエイトハンディと燃料リストラクター1段階、ハンディなりの予選タイムだったと思いますが、ポールポジションの車両は、われわれよりも重くても約1秒速かった。ソフト系のタイヤを装着していたとすれば、決勝の第1ステントはキツイですし、それもあまり考えられない。決勝では、淡々と、そして上位を目指します」

関谷 正徳 (1号車チーム監督)



「現状、われわれが置かれている状況を考えれば、とても良い予選結果だったと思います。富士のロングストレートでは燃料リストラクターが効いてトップスピードが遅い。ドライバー達がコーナーで頑張ってくれて、タイムを出してくれました。本当に上出来の予選でした。それにしても、ポールの23号車は、われわれよりも重くて燃料リストラクターも入っている。凄いです」

館 信秀 (総監督)



「ランキングが上位になればハンディをもらうわけで、その状況で今回の7番手グリッドからの決勝スタートに満足していたのに、ポールポジションのGTRは同じリストラクターで実ウエイトがうちよりも4kg重いと聞いて驚いた。1秒も速かったのですから。しかし、決勝ではなんとかしたい。チームの総力を投入して、なんとかしたい」

2018 スーパーGT 第5戦
富士スピードウェイ
2018年8月5日(日)

決勝 来場者: 38,300人 天候: 曇り時々晴れ

LEXUS TEAM KeePer TOM'S のカーナンバー1 は、予選7番手グリッドからスタート。177周レースの序盤戦から、積極的な展開で順位をアップ。7周目には、チームメイトの36号車の背後につけると、その後も安定したラップタイムでレースを進めた。4回のピットインタイミングでは、しばしばトップを走行するシーンもあった。そして、最終ステントでトップの12号車が順位を下げると、チームメイト共に順位をあげて2位へ。36号車に迫る勢いを見せて TOM'S にとって初の1-2フィニッシュを達成。シリーズランキングのトップに立った。



- いつものようにニック・キャンディがスタートドライバーを担当して、1周目に6位、3周目に5位、7周目に4位に順位をあげた。
- キャンディに替わって第2、第4ステントを担当した平川 亮も、 constantなラップタイムを刻んで、今シーズンの最長レースをノーミスでドライブ。
- ピットワークも完璧だった。これまでの4戦では、ピットでタイムをロスすることが多かったが、今大会までにピットクルーが練習を重ねて、完璧な作業をこなして、毎回マシンをコースへ送り出した。
- 最終ステントに入って2位に順位をアップ。トップの36号車とのタイム差は、約5秒。そこから徐々に差を縮めて、チェッカーフラッグが振り下ろされた時は、わずか1.5秒差でフィニッシュした。
- 700km以上のレースでは、2位に18ポイントが与えられ、トータル47ポイントでランキングトップに立った。

DRIVER	Car No.	Race Result / Fastest Lap	
平川 亮	1	P2	1:31.928
ニック・キャンディ			1:31.427

天候	曇りときどき 晴れ/ドライ	
気温/路面温度	気温: 31-28度C	路面温度: 47-34度C

平川 亮 (1号車ドライバー)

「燃料リストラクターによって、ストレートスピードは伸びなかったです。それでもマシンのバランスが良くてラップタイムとしてはよかったです。予選から決勝へのマシンセットアップ変更がとても上手いと思います。優勝はできませんでしたが、現状における最高のレースができて、ランキングもトップに立つことができました。しかし、次戦の菅生大会は、ウエイトが増して、リストラクターも一気に3段階になるので、非常に厳しいレースになるでしょうね。ウエイトハンディが半分になる第7戦のオートポリスでも燃料リストラクターが装着されることになると、もっと厳しいかなと心配になってきました」

ニック・キャンディ (1号車ドライバー)

「今日のレースは、自分にとってスーパーGTで最高のレースができたと思う。チームが事前にピットワークの練習をしてくれて、これまでタイムロスしていた点を完全に改善してくれた。チームにとっても感謝している。マシンは、最高の状態だった。2位に上がってからも、チームメイトに追いついたかったけれど、あれがマックスだった。もし、前戦のタイで36号車がフィニッシュしていれば、ウエイトをもっと積んでいただろうから、抜けたかな(笑)。これでランキングトップだから連覇に向けて頑張る」

小枝 正樹 (1号車エンジニア)

「決勝直前のフリー走行で、とても良いセッティング、合わせこみができました。ハンディを感じさせない走りができたと思います。そして、36号車に続いて2位獲得は、本当に上出来なレースでした。ピット作業も今回はノーミスでした。ランキングがトップですが、もっと重くなって、燃料リストラクターもきつくなるので、次戦が大変です」

関谷 正徳 (1号車チーム監督)

「素晴らしい、素晴らしいという言葉に尽きるレース内容でしたね。ドライバーのみならず、チームのスタッフ一人一人が最高の仕事をした結果ですね。最後の最後まで手を緩めずに戦う姿勢を崩さなかった強いチームを見ていただけたと思います。今回の2位獲得で、一步チャンピオンへ近づきましたが、この先に厳しい戦いが待っているの、再び気を引き締めて行きます」

館 信秀 (総監督)

「36号車の優勝以上に、今回の1号車のレースを褒め称えるべきですね。決勝に強いトムの底力を最大限発揮してくれた。われながら、凄いチームだと思いますよ。何と言ってもチームにとって初めての1-2フィニッシュですから。今回のレースは、チームの歴史に残る一戦でした」

※次戦の第6戦は、9月15-16日(日)に宮城県のスポーツランド SUGO で開催されます。